

にっこり笑顔



発行：校長 菅 昌徳

<高等部現場実習壮行会>

10月28日（金）に現場実習に向けた壮行会を行いました。1年生はいよいよ初めての实習が始まります。壮行会では学年ごとにステージに立ち、一人一人が目標を発表してくれました。3年生は今回が最後の実習ということもあり、これまで以上に引き締まった顔つきで実習先や仕事内容、心掛けて取り組むことなどについて胸を張って大きな声で発表してくれました。その様子に2年生、1年生は憧れをもち、目を輝かせて心を引き締めて聞き入る姿が見受けられました。



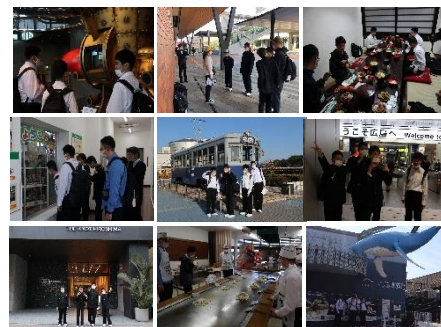
発表のときには、3年生の姿をまねるように、引き締まったおもむきで発表していました。「みんな、かっこいいよ。仕事に向かう緊張感を最後まで絶やさずにやり遂げてね」との思いを胸に生徒たちの発表を聞いていました。高等部の生徒たちは、自分の進路（将来の自分の生活）を思い浮かべながら今の自分に何が必要かを考え、夢や憧れの実現に向けて社会生活の体験をしています。私たち大人は応援者として、彼らの思いを大切に寄り添いながら立場に応じた支援や指導を進めていかなければならないとあらためて自分自身の意識を高めさせられた壮行会でした。

<中学部修学旅行>

夏休みが明けても新型コロナウイルス感染に収束の見通しがもてず修学旅行の実施が危ぶまれましたが、予定通り11月9日（水）から11日（金）の日程で広島方面に長崎駅を出発しました。出発式には、代表の生徒が見送りに来られていた保護者の方々に楽しみにしていることを発表してくれました。

生徒たちの顔を覗いてみるとこれから始まる旅行に「ワクワクとドキドキ」の期待と家族と数日のお別れに「シクシク」の寂しさが見え隠れしているように感じました。その様子に「そうだよ、不安もあるけど楽しいよ」と心の中でささやきながらマスクの中の口元が緩みつつ、行ってらっしゃいと改札で見送りました。

3日間の旅行を終え、バスを降りてきた生徒たちの顔は疲労感がありながらも楽しみにしていたいろいろな計画をやり遂げたという達成感や満足感があふれていました。そして何よりもお迎えの保護者の方々の姿を見ての安堵感がありました。その様子にまた新たな体験と経験をすることができ成長した生徒たちの姿を感じました。



<附属小学校・中学校との交流>



11月に小学部の1組、2組、3組では、それぞれに附属小学校との2回目の交流を行いました。前回は附属小学校に出向いての交流会ということもあって、少し緊張した中で自分らしさを発揮できなかった子供たちでしたが、今回は2回目ということや自分たちの学校での交流ということもあり、それぞれが自分からという思いをもって積極的に行動し、交流会を盛り上げる様子が見られました。



中学部では、11月28日（月）に交流会を再開しました。小学部同様に3年ぶりの交流会ということで生徒たちはワクワクしながらも緊張した顔つきで附属中学校に出向いていきました。慣れない場所に緊張感で学校での姿を出し切れない生徒たちの様子が見られました。生徒たちは近くに寄り添う先生たちに助けを借りながら自己紹介をしたりレクリエーションを楽しんだりしていました。



子供たちの様子にサッカーワールドカップの開催期間ということも重なり、サッカーの試合でよく聞く「ホーム&アウェイ」という言葉が思い浮かびました。そして、「それぞれが最高のパフォーマンスを出すためには、周りの環境もとても大切だな」とあらためて思いました。子供たちが学校生活を楽しむために私たちは、子供たちの最大の応援者としてそれぞれが興味・関心・意欲を高めてくれるように環境を整え、指導を充実させていかなければと深く感じました。また、同年代との交流が子供たちの成長と社会性の広がりにも大切であることも感じました。今後も共に育つ学習として交流会を続けて行ければと考えます。